

東京病院ニュース

第55号



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168
ダイレクト・イン・ダイヤル 042 (491) 4134
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/tokyo/>

新年を迎えて

国立病院機構東京病院院長 大田 健

新年おめでとうございます。今年は申（猿）年、知恵があり、素早く活動的で、個性を発揮しながらも集団で秩序を重んじて行動する動物だという印象を持ちます。またサルで想起するのは、三猿の図で、「見ざる、聞かざる、言わざる」というポーズです。いろいろに解釈されていますが、そのポーズをそのまま受け取ると、余計なことにまで首をつっこまないで生活する处世訓に繋がっているとも考えられます。しかし、医療に携わる立場にあっては、患者さんの状態をしっかりと見（診）て、患者さんの話や身体の発する音を聞（聴）いて、情報の取り扱いに注意しながらも積極的に発言して担当者で情報を共有することが求められます。すなわち、我々は医療に関しては積極的に「診て、聴いて、言う」ことを意識し、申年に因んで、知恵を尽くしてみんなで協力して迅速な行動をとることを心掛ける一年にしたいと思います。今年は4月の年度代わりをまたいで、病院の進化に繋がるのが予定されています。放射線治療装置の更新が行われ、最新型にリニアックが導入されます。念願の地域医療支援病院を昨年秋に申請しており認可されることを待っている状態です。東京都がん診療連携協力病院（部位別）で肺癌については症例数の基準を満たしており、諸条件が整って申請できる状態になります。診療体制としては、呼吸器センター、喘息・アレルギーセンター、消化器センター、総合診療センター、放射線診療センターの5つのセンターで引き続き各診療科をまとめ、新たに4月からは臨床検査センターを開設して臨床体制の一層の充実を図ります。本年も引き続き地域医療連携推進委員会および交流会をさらに充実させ、顔の見える関係で医療連携を推進し、地域医療の包括ケアを支える中核病院としての機能が十分に果たせる様に、診療体制を整備し維持して参ります。

これまでの歴史を大切にしながら呼吸器、消化器、循環器、アレルギー、泌尿器、神経、視覚、運動器、歯科などの領域を充実させ、北多摩北部医療圏はもとより我が国の医療の充実に貢献できる施策を順次適切に実行する所存です。「自分や自分の家族がかかりたい病院」を念頭に、患者さんにとって快適で充実した医療を受けられる病院、職員全員にとって忙しくても気持ちよく楽しく仕事のできる環境を作り上げ、さらに東京病院が発展するように、全力で職責を果たす所存です。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



第13回東京病院地域医療連携交流会を開催致しました。

地域医療連携部長 廣瀬 敬

平成27年11月17日（火）19時30分～当院大会議室にて、第13回東京病院地域医療連携交流会を開催致しました。お忙しい中、120余名の先生方、医療スタッフの皆様方にご参加いただき、盛大な会となりましたことを心よりお礼申し上げます。



【大田院長の開会挨拶】



【尾崎東京都医師会長の講演】

今回は、日頃より当院の地域医療連携推進委員としてもご協力いただき大変お世話になっております東京都医師会長の尾崎 治夫先生に「東京都医師会の3つの医療政策」という演題名で①東京にふさわしい地域医療提携体制、地域包括ケアの構築、②2025年に向けて変容を迫られる医師をしっかりとサポートできる東京都医師会に、③2025年に向けて超高齢者社会を見据え都民の予防医療への積極的政策、の3点について幅広くご講演いただきました。院内外の多くの参加者からは大変好評であり、尾崎先生には大変お忙しいなか貴重なご講演を賜り病院一同感謝申し上げます。続いて当院の診療科紹介として、呼吸器内科と歯科の紹介をさせていただきました。最後に開催に際しご尽力いただいている平野 功清瀬市医師会長の閉会のご挨拶で盛会裡に閉会しました。

講演会終了後は、当院食堂に場所を移して懇親会を開催し、石橋 幸滋東久留米市医師会長の乾杯のご挨拶ではじまり、当院の各科診療科長からも挨拶をさせていただきました。多数の方々にご参加いただき、短い時間でしたが楽しく意見交換をすることができ重ねて感謝申し上げます。

また、地域医療連携交流会に先立ちまして、19時00分～第5回東京病院地域医療連携推進委員会を開催致しました。北多摩北部2次医療圏の清瀬市、東久留米市、小平市、東村山市、西東京市、および所沢市、朝霞地区の各医師会にご協力いただき、各医師会長の先生方、医師会よりご推薦頂いた先生方にご参加いただき誠に有難うございました。ご指摘いただいた点に関しましては、真摯に受けとめ地域医療連携に貢献するように改善してまいります。



【石橋東久留米医師会長の乾杯挨拶】



【懇親会の様子】

次回の第14回東京病院地域医療連携交流会は、平成28年6月21日（火）に開催を予定しております。今回不手際な点もあったかと存じますが、より良い地域医療連携交流会となるようスタッフ一同努力して参りますので、次回も多数の方々にご参加いただければ幸いです。

連携医の方を紹介します



並木病院

院長 赤津 拓彦 先生

標榜科 内科 呼吸器内科 循環器内科 糖尿病内科 神経内科 内視鏡内科 外科
整形外科 消化器外科 脳神経外科 乳腺外科 皮膚科 リウマチ科
リハビリテーション科 麻酔科

院長からの一言：

医風会並木病院は178床の病床を抱えるケアミックスの病院です。内訳は一般急性期38床、特殊疾患床58床、療養床82床です。個人的には病院は公共財であると考えており、患者のため、地域のため、次いで職員のために存在すると思っています。少子高齢化で支え手のいない高齢者が増えることを念頭に法人内には以前から在宅診療部門、グループホーム、ケアハウスがあります。医療・看護・介護の統合に留意しながら国策である地域包括ケアの具現化に努めています。

御縁があって東京病院の地域医療連携委員会に出席させて頂いておりますが病院長大田健先生、地域連携部長廣瀬敬先生を始めとする職員の皆様の地域連携に対する真摯な姿に感銘を受けています。日本一の呼吸器病院となることに加え、日本一の地域連携ができる病院として近隣のクリニック、病院の支えとなって頂けることを心から願っています。

受付時間 8:00~11:30 (午前) 13:30~16:30 (午後)

《休診日》土曜日午後、日曜祝日、年末年始(12月30日~1月3日)

ホームページ：<http://www.namiki-hospital.jp/>

所在地：〒359-1106 埼玉県所沢市東狭山ヶ丘5-2753

連絡先：TEL 04-2928-1000



◆第4回 東京病院 病院祭報告◆

外来ホールの様子



【テーマ】健康を育む地域のハーモニー

～もともとと知ろう！ 東京病院～

平成 27 年 11 月 14 日、第 4 回東京病院祭には、1,000 人を超える方々にご来場いただき、大盛況のうちに終了することができました。今回の病院祭は、前回より 1 時間早い 10 時に開場とし、健康チェックの整理券配布を 1 人 1 種類としましたので、開場前の行列・混乱は前回より緩和されました。メイン会場の外来ホールでは、午前は永井外来診療部長の講演「高齢者の肺炎」、午後は黄原亮司さん(チェロ)、水野ゆみさん(ピアノ)、そして、フルート奏者の山形由美さんによるクラシックコンサートが行われました。会場に来られた 500 人以上の皆様は、美しい音色に心が癒され、「プロの味」を堪能されたと思います。

今回の病院祭では、渋谷金太郎清瀬市長にお越しいただき、コンサートの開始前にご挨拶をいただきました。市長は、清瀬の歴史、結核との戦いの歴史を熱く語られ、「清瀬を世界医療文化遺産にする」、という意気込みが病院祭を盛り上げてくれました。

さらに、健康チェック、健康相談、栄養相談、お薬相談、放射線見学ツアー、介護用品展示、職場紹介ポスターなどの企画・イベントを通して、地域の皆様とのふれあいを高め、東京病院のことを「もともとと知って」いただけたのではないかと思います。次年度の病院祭も秋に開催する予定ですが、楽しく元気の出る病院祭となるよう企画いたします。

どうぞご期待ください。

★第 4 回病院祭実行委員長 小林 信之



渋谷金太郎 清瀬市長

各担当者から一言 & フォトギャラリー



永井外来診療部長

病院祭メイン会場の外来ホールでは、午前 11 時より講演会が始まり、永井英明先生が「高齢者の肺炎 ～肺炎から身を守るには～」を講演されました。高齢者の肺炎として多くみられる誤嚥性肺炎とその予防方法、重症化する肺炎球菌肺炎と肺炎球菌ワクチンによる予防を中心に分かりやすくお話しをされ、活気ある会となりました。

★講演担当 診療部



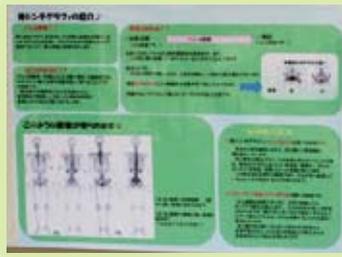
チェロ・ピアノコンサート



フルートコンサート

午後 1 時からの黄原亮司(チェロ)・水野ゆみ(ピアノ)コンサートでは、「愛の挨拶」、「白鳥」、「小犬のワルツ」、「チェルダッシュ」、「千の風になって」などを、続く午後 2 時からの山形由美フルートコンサート(ピアノ:水野ゆみ)では、「愛の夢」、「歌の翼による幻想曲」などクラシック曲のほか、日本の歌「ハナミズキ」、「荒城の月」も奏でられ、さらに「花は咲く」では会場が 1 つになり、来場された皆さんが大きな声で歌いました。普段の職場がコンサート会場さながらに変わり、魅惑のステージに酔いしれました。

★コンサート・広報担当 事務部



今回は「箱の中身はなんだろう？」を合言葉に放射線科ツアーを行いました。箱の中身をクイズ形式にして、X線撮影・CT撮影の画像から当ててもらった参加型の内覧ツアーにしました。参加者に色々想像を膨らませていただき、答え合わせでは「あー！！」と当たった方も外れた方も楽しんでいただけました。

また、今回は身近なもの(昆布・肥料等)を放射線測定器で計測を行い、日頃何気なく食べているものや使っている物に自然放射性元素が含まれていることにも関心を示していただきました。ツアーを通して、楽しく放射線科の検査を理解していただけたと思います。

★放射線見学ツアー担当 放射線科

職場紹介ポスターでは、病院に来られた皆様に部門の特徴や仕事内容を分かりやすくお伝えできるように作成しました。このポスターからそれぞれの部門で働く職員の活気も感じ取っていただけたら幸いです。

★職場紹介ポスター担当 看護部



職場紹介「院長賞」
受賞ポスター



栄養相談



各種健康チェックの様子

栄養相談と出店のお手伝いをさせていただきました。

栄養相談は、各種パンフレットや栄養補助食品のサンプルを準備しました。

例年より相談される方が少なかったようですが、その分時間をかけてお話が出来るように感じます。

出店は売店に人気の焼きたてパンをお得価格で提供していただきました。

個数制限にもかかわらずあっという間の完売！ご協力ありがとうございました。

★栄養相談・出店担当 栄養管理室

今年の健康チェックは、肺年齢測定、血管年齢測定と、骨密度測定に代わり物忘れ相談プログラムを用いた物忘れ測定を実施しました。物忘れ測定の参加者が予定数より若干少なめでしたが、いずれも好評で健康への関心の高さがうかがい知れました。血管年齢測定では時間のかかる場面もあり、次回への課題となりましたが、皆様のご協力を得て無事に終了しました。

★健康チェック担当 臨床検査科



介護用品展示

介護用品の展示では身の回りのことをしやすくする道具(自助具)の展示や機器を用いて座圧測定を行いました。自助具のことを初めて知る方も多く、道具の使い方だけでなく、購入方法などの質問も多く聞かれました。介護用品を上手く活用し、日々の暮らしに役立てていただければと思います。

★介護用品展示担当 リハビリテーション科



健康相談・お薬相談

お薬についての疑問や不安などの相談を担当させていただきました。分かりやすく丁寧に説明することを心がけて行いましたので、来訪された方の疑問や不安は和らいだと思います。また、お薬が効果的に使われる一助となったとも思います。病院祭以外でも、お薬について疑問や不安がございましたら薬剤師にご相談ください。

★お薬相談担当 薬剤部



『清瀬ホスピス緩和ケア週間』のイベントが開催されました



緩和ケア病棟 緩和ケア認定看護師 村山 朋美

毎年10月第2土曜日は、『世界ホスピス緩和ケアデー』に制定されています。日本でも、日本ホスピス緩和ケア協会がこの日を最終日とした1週間を『ホスピス緩和ケア週間』とし、緩和ケアの啓発・普及活動に取り組んでいます。清瀬市には、緩和ケア病棟、緩和ケアチームを有する病院、在宅ホスピスや訪問看護ステーションなど、ホスピス緩和ケアに取り組む医療機関が多くあります。そこで、清瀬市でも『緩和ケア』についてより多くの方に知っていただくため、2012年度より、毎年この時期に信愛病院・救世軍清瀬病院・東京病院の緩和ケア病棟、訪問看護ステーション、複十字病院緩和ケアチーム、それらの医療機関が共同し、『清瀬ホスピス緩和ケア週間』の啓発活動を実施しています。今年度は、8月からパネル展示を開始し、10月24日には、東京病院で講演会とコンサート、午後からは3つの病院の緩和ケア病棟を回る見学ツアーが開催されました。この企画を通して今後も病院の連携を深めていきたいと考えています。

①パネル展示「ホスピス緩和ケアってなあに？」

8月4日～10月25日 各病院とクレアギャラリー（清瀬西友4階）におきまして順番にパネル展示を行いました。「清瀬ウィッシュツリー」と題し、各パネル会場でウィッシュリーフにみなさんの願いを記載しツリーに飾っていただきました。



このオレンジの風船は、安心して緩和ケアを受けていただくために、緩和ケアの正しい知識を広める活動を行う「緩和ケア普及啓発事業」(オレンジパルーンプロジェクト)としてのシンボルマークです。



②講演会&コンサート「ホスピス緩和ケアのお話と各職種の紹介」

10月24日（土）10時～12時 当院を会場に行われました。参加者70名

講演「ホスピス緩和ケアってなあに？」講師：村上真基医師（救世軍清瀬病院）

ホスピス緩和ケアに関わる様々な職種がそれぞれの立場で紹介され、東京病院の森田作業療法士長に緩和ケアでのリハビリについてお話をしていただきました。



③ホスピス緩和ケア病棟見学ツアー 参加者73名

10月24日（土）13時～15時 15時～17時

救世軍清瀬病院、信愛病院、東京病院の3つのホスピス緩和ケア病棟をバスで巡回する見学ツアーを行いました。

<http://www.shin-ai.or.jp/hospiceweek>または「清瀬ホスピス緩和ケア週間」でWEB検索していただきますと、詳しい情報が掲載されております。

災害拠点病院5年目を迎えた当院の災害対策と今後

災害対策部会長/呼吸器内科 川島 正裕

環太平洋のプレート境界に生活する私たちは、地震・火山噴火と共に生きる運命にあります。2011年は震度5以上の地震が71回この日本列島で発生し、その多くが東北地方太平洋沖地震の本震および余震に伴うものでした。それ以降震度5以上の地震の総数は減っていますが、東京都を襲う震度5以上の地震は2014年度に1回、2015年度には2回発生しています。特に2015年9月12日午前5時49分に東京湾の深さ約60kmのフィリピン海プレート内で発生したM5.2の地震は、朝方の強い揺れに吃驚し目覚めた方も多かったと思います。また2015年12月26日夜には、再度東京湾を震源とする震度1～2の5連続地震が発生しました。今後、南海トラフの海溝型地震と共に首都直下型地震に対して十分な警戒が必要です。

東京都災害拠点病院に指定を受けた2011年3月以降、それまで実施してきた防火訓練に加え災害訓練を実施しています。災害リスクの高い首都直下型地震を想定し、発災から院内被害状況の確認および傷病者のトリアージおよび診療を行うための新設部門立ち上げまでのフェーズ1と傷病者の受け入れおよび対応を行うフェーズ2のタイムテーブルで災害訓練を実施しています。2015年度においては、災害訓練1ヶ月前に各部門のリーダー格の人員を中心に図上シミュレーション訓練を実施し発災時の各部門および部門間の動きを熟知のうえ、昨年より倍以上の15名の模擬患者で災害訓練を計画し、効率良く経験を積むことを目標としました。また、2015年11月19日の訓練当日には清瀬市の防災担当者や清瀬消防署署員もオブザーバーとして参加され、専門家として助言を頂き改善点などの御指摘を頂きました。災害訓練終了後は各部門で訓練内容の振り返りを行いました。

4回の災害訓練を経て、職員が各々の職責（役割）を踏まえ、よりの確に災害対応モードへの切り替え・行動が可能になっていると私は感じています。しかし災害訓練の経験知のみでは十分とは言えません。2015年に仙台で行われた第3回国連防災世界会議（第1回横浜・第2回神戸と全て日本で開催されています）では、日本政府は「防災の主流化」の重要性を訴えています。「防災の主流化」とは、災害による被害を事前の対策により軽減させる取り組み、即ち災害予防の取り組みをあらゆる政策に反映させ普及させることを意味します。病院での災害対策においても、病院業務における「防災の主流化」に取り組む必要があります。災害訓練時に限らず、日々の院内業務において防災を意識して立案・計画・実施することにより発災時での危機対応能力が高まることに留まらず、普段の医療安全の向上にも繋がると考えています。

最後に、災害時には通常の外来診療・検査や入院のため多数の患者様が来院されている状況も予測されます。災害時には、災害に伴う危機的な傷病者の受け入れが最優先となり、安全を第一に考え通常の診療業務は停止し、予定していた診療、検査および手術等が中止となる可能性があることをご理解下さい。ご協力のほどよろしくお願いいたします。



褥瘡対策チーム

皮膚・排泄ケア認定看護師 雨宮 順子

褥瘡とは、一般的に「床ずれ」として知られているものです。長い時間、同じ姿勢で寝ていることにより、おしりや腰などに床ずれができてしまいます。床ずれが発生する過程の背景には、寝たきりや低栄養、さらに様々な基礎疾患が関連しています。褥瘡対策チームでは、床ずれの発生予防・治癒促進のために月1回の会議・回診をして実施して各々の医療スタッフが高度の専門性を発揮し、問題解決に向けて協同しています。褥瘡対策チームから看護師または主治医に、ケアや治療方針を確認してアドバイスをを行い問題解決に向けて活動しています。

褥瘡チーム構成員	役割
専任医師 1名	院内の褥瘡発生状況や褥瘡ハイリスク患者の実態を把握し、チーム活動方針の決定、褥瘡治療方針の決定やアドバイスをを行っています。
管理栄養士 1名	褥瘡を有する患者や褥瘡ハイリスク患者で栄養管理の必要がある場合の特別な栄養管理を提案してフォローしていきます。
薬剤師 1名	褥瘡治療に用いる外用剤、ドレッシング材に関して適正使用など一緒に考え、使用方法のアドバイスをしています。
医事課職員 1名	褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定と算定数報告を行いチーム内で情報共有します。
看護部褥瘡対策委員会 委員長・副委員長	皮膚・排泄ケア認定看護師と共にスキンケアや圧を分散させる方法を検討します。
褥瘡専従管理者 皮膚・排泄ケア認定看護師	皮膚・排泄ケア認定看護師はスキンケアや圧を分散させる方法などの褥瘡予防やリスク患者情報を管理し専門職種間の調整役を担っています。

褥瘡対策チームの回診では、褥瘡を有したまま退院される方に、継続して管理が行えるような治療やアドバイスも実施しています。また、治療後も再発しないようお肌のお手入れ方法を具体的に説明しています。

さらに各病棟には褥瘡リンクナースが1名ずつおり、褥瘡対策チームの課題に病棟の中心となって取り組み、実際に現場で関わるスタッフの意見を共有し褥瘡対策に反映できるよう役割を担っています。

リンクナースの役割	褥瘡予防対策のためにスキンケアや圧を分散させる方法を病棟内で周知し徹底できるよう病棟で働きかけています。
-----------	--

今後も現場スタッフと褥瘡対策チームがともに褥瘡対策に取り組み、褥瘡の予防・管理が適切に実施できるように関わっていきたいと思います。



当院エキスパート医の紹介

呼吸器内科医長・地域医療連携室長 益田 公彦

私が東京病院にきてしばらくして入院中に咯血で命を落とす症例を経験した。今振り返ればこれが原点であったかもしれない。私が赴任した2000年前後は、敷地に広がる動線の長い療養所病院から現在の7階建の病院に変わっていく頃だった。その頃は咯血の治療といえば呼吸器外科の医師が年間5例ほど血管内塞栓術をやっていた。それから呼吸器センターとして基幹病院に成長するにつれ咯血の患者さんは次第に増えてゆき、発想を転換し「自分が咯血治療をやる」と決意した。見聞を広めていくと咯血治療に特化した医療機関は殆どないこともわかった。2006年の岸和田盈進会病院咯血・肺循環センターの設立につづき、東京病院では2011年に国内で初となる咯血専門外来を開設した。現在は関東圏をこえて東日本全域から咯血の治療を受けに患者さんが訪れるようになり、年間130例ほど血管内塞栓術を行なっている。咯血を引き起こす多くの疾患を、手術ではなく内科医がカテーテル治療で治す時代に完全に突入したのである。私がこの15年で体制整備したもうひとつのセクションがある。それは胸膜疾患に対して局所麻酔で行なう胸腔鏡検査である。これは胸水が溜まった胸腔内に内視鏡をいれて、初診からおよそ5日で診断にこぎつけ、膿胸では搔爬術という治療を同時に行なう技術である。呼吸器内科医が安全に行えるよう学会発表やシンポジウムでの討議を重ね、これまで国内で先人的な役割を果たしてきた。近年ようやく呼吸器科を標榜する専門病院でも行なえるようになってきているが、東京病院では年間80例という驚異的な数を実施している。まさに日本の呼吸器科臨床を牽引するにふさわしく、2つのセクションに日々立ち向かい、世界的スタンダードを東京病院から発信するよう努力をしている。また現在進行中であるが、カテーテル治療の研修を受け入れ、きわめて特殊な血管内治療の技術を均一化しながら継承している。日本国内において咯血治療を拠点化し、どこの地域でも安心して治療が受けられるよう、ネットワーク作りに力を注ぎ始めたところである。

結核について (8)

呼吸器内科 山根 章

前回も、結核の治療についてお話ししました。

要約すると、

- ① ある特定の薬剤が効かない結核菌（薬剤耐性菌といいます）による結核を薬剤耐性結核と呼びます。また、大切な抗結核薬であるイソニアジドとリファンピシンの両方が効かないタイプの結核を特に「多剤耐性結核」と呼びます。
- ② 初回治療前から薬剤耐性結核である場合もありますが、再発例の方に耐性菌が多く見られています。
- ③ 薬剤耐性結核に対しては、残された有効な薬剤を組み合わせる治療を行います。治療期間は、耐性のない菌に対する治療より長くかかります。

ということでした。

今回も、引き続いて結核治療についてお話ししたいと思います。

前回、多剤耐性結核について少し触れました。上の要約にも記したように、最も大切な抗結核薬であるイソニアジド（INH）とリファンピシン（RFP）の両方が効かない結核菌を多剤耐性結核菌と呼んでいます。連載第6回で記載したのですが、普通の結核菌（薬剤耐性のない結核菌）に対する標準治療では、イソニアジドとリファンピシンが治療の中心で、治療開始時にはこの2薬剤を含む3-4種類の薬を内服しますが、2ヶ月経つと他の薬は内服終了となり、その後はイソニアジド、リファンピシンの2剤を治療が終了するまで内服し続けることになっています。そのような重要な薬が、多剤耐性結核菌では両方とも効かないのですから、この菌の治療が難しいことは言うまでもありません。

世界的には多剤耐性結核菌は大きな問題となっています。特に発展途上国で結核の発生率がまだ高い国々では、多剤耐性結核も多く治療上問題となっています。2012年に、全世界で報告された肺結核患者のうち、約45万人が多剤耐性結核でした。そのうちの半数以上は、インド、中国、ロシア連邦で発生しました。

それでは、日本においてはどうか。実を言うと以前に比べて多剤耐性結核は減少しているのではないかというのが、東京病院で結核患者さんを診ている医師の実感ではないかと思えます。実際、全国調査の結果を見てみると、2002年の調査では、多剤耐性菌の割合が1.9%だったのに対して、2007-2008年の調査では0.7%でした。また、前回述べましたように、再発結核の方が耐性菌の割合が多いのですが、これらの調査によると、再発例でも多剤耐性結核の割合は減少しています。すなわち、2002年には再発例のうち多剤耐性結核は9.8%を占めていたのですが、2007-2008年では4.1%でした。また、多剤耐性結核菌の中でも、イソニアジド、リファンピシンに加えて数種類の薬剤が効かないものを超多剤耐性結核菌と読んでいますが、これもこの調査では報告数が減少していました。このように多剤耐性結核は日本では減少傾向にあると推定され、これは良いことだと思います。

多剤耐性結核菌に対する治療も一般の耐性結核菌と同様に、効く薬（感受性のある薬剤）を数種類組み合わせで行います。治療期間は2.5-3年を要します。

今回はこれでおしまいです。次回も引き続いて結核治療に関するお話をいたします。

おくすりあれこれ (3)

薬剤部 森 達也

③おくすりを飲み忘れたらどのようにすればいいの？

おくすりが持つ効果を安全に、そして最大限に引き出すためには、正しいのみ方で飲むことが重要になります。しかし、くすりを飲み忘れてしまったという経験は誰にでもあると思います。では、おくすりを飲み忘れてしまったらどのようにすればよいのでしょうか。あわてて飲んだり、2回分を一度に飲んだりするのはたいへん危険です。大部分のおくすりは次の服用時間まで時間が空いていれば気づいた時点で飲んでよいのですが、食事の時間にあわせて飲んだほうがよいおくすりなどは対応が異なり、自分で判断するのは危険なおくすりもあります。今回は飲み忘れたくすりを飲むタイミングについてお話しします。

1日3回毎食後に飲むお薬の場合は、朝に飲むお薬を昼に思い出したとしたら、朝の分を昼に飲み、昼の分はお休みして夕からまた正しく服用します。または、昼の分は夕に、夕の分は寝る前に飲んで翌日からまた正しく服用します。目安として、4時間以上の間隔を空けましょう。1日2回であれば、思い出した時に服用し、その日になるべく時間を空けて2回目を服用します。目安として、6時間以上の間隔を空けましょう。1日1回であれば、思い出した時に服用し、翌日からまた正しく服用します。目安として、8時間以上の間隔を空けましょう。

しかし、おくすりが食事の影響を受けるおくすり、例えば食前や食間に飲むおくすりは胃の内容物によってくすりの吸収や効果が変わる場合が多く、胃に内容物がある状態で飲むと効かなかったり、効き過ぎることがあります。食後に飲むおくすりでも血糖を下げるおくすりは次の食事まで時間が空きすぎると血糖が下がり過ぎて危ないこともあります。

このように、おくすりのよって飲み忘れたときの対応が異なることがあるので、いつも使っているおくすりについてあらかじめ、医師、歯科医師、薬剤師に飲み忘れたときの対応を確認しておくようにしましょう。そして、わからなくなったときには医師、歯科医師、薬剤師に相談してください。

診療内容 病床数560床

- 呼吸器センター ○喘息・アレルギーセンター ○消化器センター ○総合診療センター ○放射線診療センター
- 呼吸器内科
 - アレルギー科
 - 消化器内科
 - 総合内科
 - 整形外科
 - 呼吸器外科
 - 眼科
 - 消化器外科
 - 循環器内科
 - リハビリテーション科
 - リハビリテーション科
 - 耳鼻咽喉科
 - リハビリテーション科
 - 神経内科
 - 泌尿器科
 - 放射線科
 - 皮膚科(入院のみ)
 - 放射線科
 - 麻酔科
 - 放射線科
 - 緩和ケア内科
 - 緩和ケア内科
 - 臨床検査科
 - 歯科(入院のみ)

「人間ドック」・「肺ドック」・「消化器ドック」受付しております。

<実施期間>「人間ドック」：平日の月・木・金曜日のみ(金曜日の人間ドックはペプシノゲン検査選択の方のみ可能)
「肺ドック」「消化器ドック」：平日の月～金曜日

<受診を希望される方は>

完全予約制となっておりますので、ご希望の方は下記の予約センターまでお問い合わせください。

【予約センター：TEL 042-491-2181 受付時間：平日 8:30～15:00】

受付時間：初診 8:30～14:00 (消化器内科の月、金は12:00までの受付) 予約センター 042-491-2181
再診 8:00～11:00 (受付時間平日8:30～15:00まで)

専門外来案内

専門外来名		診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
呼吸器関係外来	禁煙(予約制)	火(午後)	タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
	肺がんセカンドオピニオン(予約制)	木(午後)	肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。 [1時間まで10,800円]
	喀血(予約制)	火(午後)	咳をともなって気道・肺から出血する状態を喀血といいます。肺アスペルギルス症、気管支拡張症、非結核抗酸菌症、肺結核、肺癌の患者さんにおこります。ご相談ください。
	間質性肺炎(予約制)	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合があります。
	非結核性抗酸菌症	水(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
	いびき COPD (睡眠時無呼吸症候群の検査) 難治性喘息外来(予約制)	月～金(午前) 月(午後) 2時～4時	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。 通常の喘息治療でうまく喘息がコントロールされていない難治性喘息の方。
ものわすれ外来(予約制)	水(午後)	最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)	
高次脳機能外来	木 (第1週・第3週のみ)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など (要神経内科外来受診)。	
肝胆膵(予約制)	金(午後)	肝臓癌、胆嚢癌、胆管癌、膵臓癌や胆石症など、肝胆膵疾患の手術のご相談、お申し込み、セカンドオピニオン等に、専門の医師が対応いたします。	
地域リハビリ相談	木(午前)	連携医の先生方からかかりつけの患者様で、運動・言語・嚥下機能に問題があり、リハビリテーションをご希望の方。(かかりつけ医の情報提供書が必要です。)	
白内障外来(予約制)	水(午後) 13:30～15:30	白内障の診断、手術の相談、説明など、これから白内障手術を検討されている方の各種相談などを行っています。	

医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合(医療機関)

外来診療の予約：診療依頼書をFAX送信して下さい
CT・MRI検査の申し込み：医療連携室へお電話下さい

医療連携室

FAX 042-491-2125 (8:30～15:30)
TEL 042-491-2934 (8:30～17:15)

交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。
- 西武新宿線 久米川駅北口より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車でお越しの際は正面よりお入り下さい。

(駐車場265台)

30分以内 無料

31分～4時間 100円

以後1時間毎 100円

(20時15分～7時 1時間毎300円)

WEB検索

東京病院

検索

